

長崎の林業

小曽根星堂書



長崎県立上五島高等学校 農林水産業説明会（新上五島町）

11

目次

- 林政だより 松くい虫の大被害を乗り越えて
～小値賀町、激闘の軌跡～ 2～3
- 特集記事 「捨てられるもの」をカタチに
駆除イノシシの命をつなぐジビエレザー作家 小畑 真裕子さん 4～5
- 林業普及だより ながさき伐木チャンピオンシップの練習会を開催しました！ 6
- 地方だより・五島 白砂清松の風景を守る治山事業
～新上五島町蛤浜 防風保安林～ 7
- 地方だより・県北 ～林業事業体紹介～ 株式会社 鶴田林業 8
- 林業団体情報 市町・県職員等の森林土木技術スキルアップ研修 ～令和5年治山林道技術研修会～
森林のインフラともいえる林道等の災害・維持管理に焦点 9
- センターだより ツバキ油の保存は、水分・温度・光の条件がポイントです！ 10
- イベント情報・県央 長崎南部森林組合 諫早支所 農林水産大臣賞受賞！ 11
- 長崎の山と森 樹木医巨樹さるく（亀岡神社のイヌマキ、慈眼桜） 12

「長崎の林業」は、
ながさき森林環境
税を活用して発行
しています。



2023
No.815

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！

ながさき森林環境税の取組についてはこちら→



森林ボランティアに興味のある方はこちら→



FREE

ご自由にお持ち下さい。

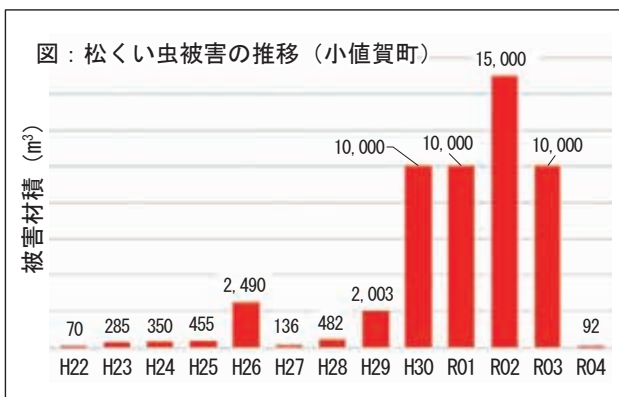
「長崎の林業」はこちらからもご覧いただけます→



林政だより

松くい虫の大被害を乗り越えて ～小値賀町、激闘の軌跡～

五島列島の北部に位置する小値賀町では、防風林や防潮林として古くからマツが大切にされてきました。しかし平成29年度から、これまで経験したことのない松くい虫の激害が続きました。ここでは町がいかにしてこの危機を乗り越えたのか、その軌跡をご紹介します。



被害の連鎖

松くい虫被害材積の変遷は、図のとおりです。マツ1本当たりの材積が0.48m³程度ですので、令和2年度の被害は3万本を超える計算になります。被害状況写真からも、被害のすさまじさが伝わります。



継続的に松くい虫対策を実施していたにも関わらず、なぜ大きな被害となったのか、その原因は明らかではありませんが、夏の少雨高温によりマツが弱っていたと

ころに松くい虫が加害したことがキッカケのひとつと考えられ、まずは平成29年度に島東部で多くのマツが枯れました。

枯れてしまった多くのマツは、そのまま感染源となるため、徹底した対策が不可欠ですが、海岸の崖地では被害木の伐倒駆除や薬剤散布が困難で、結果として感染源を残してしまいます。東部で生じた被害を西部に拡げないため、平成30年度は島の中央部で樹幹注入と薬剤散布を重点的に実施し、予防と駆除を徹底する作戦がとられました。思ったような効果は得られず、被害は大きく拡大してしまいました。

試練は続く

拡がった被害をどう終息させるか。令和元年度、町が、町民、有識者や行政からなる「小値賀町松林等保全対策に係る検討会」を設置し、戦略的な松くい虫対策の方針を記した「小値賀町松林保全計画」を策定しました。

松くい虫対策では、被害木の完全駆除を目指しますが、被害木を一本も残さないというのは現実的に難しく、減らそうとすればするほど、大きなマンパワーと経費が必要となります。

そこで、これまで対策を集中して実施していた「高度公益機能森林」を393haから244haまで絞り込み、伐倒駆除、薬剤散布、だけでなく薬剤の樹幹注入まで徹底する対策が計画されました。対策の選択と集中を極めた訳ですが、この方針は、元森林総合研究所の九州支所長を務められた吉田

成章先生のアドバイスによるものです。

心機一転、令和2年度は、この新たな計画が実行される予定でしたが、さらなる試練が襲います。新型コロナウイルス感染症の流行です。町が島外からの入込を禁止する苦渋の決断をしたため、この年は航空機での薬剤散布が行えず、被害量が最大となっていました。

参考：松くい虫対策の実績（小値賀町）

対 策	区 分	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
薬剤散布 (航空機)	事業量 (ha)	189	189	176	176	(中止)	57	43
	事業費 (百万円)	11	12	11	11	0	4	3
薬剤散布 (地上)	事業量 (ha)	25	25	25	25	45	14	11
	事業費 (百万円)	2	2	3	5	5	5	4
被害木の 伐倒駆除 ※マツ本数	事業量 (本)	298	2,234	12,059	9,639	9,670	4,710	236
	事業費 (百万円)	6	100	372	233	248	116	5
樹幹注入 ※マツ本数	事業量 (本)	71	82	1,128	7,555	6,491	742	88
	事業費 (百万円)	1	1	15	94	123	9	2
合計	事業費 (百万円)	21	115	401	343	377	134	14

※四捨五入のため内訳と計が整合しない。

作戦と想いの勝利

平成29年度から続いた被害で枯れたマツは白骨化した屍のようで青々としたシイ・カシとの異様なコントラストを描き出しています。

しかし、安心してください。「高度公益機能森林」のマツは元気な姿を見せています。

この区域以外のマツは枯れてしまった訳ですが、これは感染源となり得るマツがなくなり、「高度公益機能森林」に対策を集中できる新たな環境が生み出されたことに他なりません。

まさに吉田先生が意図したものであり、「小値賀町松林等保全対策に係る検討会」の作戦勝ち、そして様々な逆境の中、最大限の努力で対策を実施し続けた小値賀町のマツを大切にする想いの勝利といっぴよいのではないのでしょうか。

今後は……

長く続いた激害に勝利し被害が終息したため、令和5年度からは激害前の通常松くい虫対策に戻るそうです。感染源となり得るマツが殆んどなくなった今は、通常の実策を実施すれば、大きな被害が発生する可能性は低いと考えられますが、心配もあります。

実はマツの稚樹が毎年あちこちで発生しているのです。マツが小さいうちは被害を受けたり、発生源となることはありませんが、大きくなるにつれてそのリスクは大きくなります。

町の方々はこれらの稚樹を伐らずに大切に育ててこられたそうですが、新たな感染源となる可能性が高いため、今後は大きくなる前に伐っていく必要があります。

やさしい町の皆さんにとって新たな試練となりそうですが、きっとこの試練も乗り越え、今後もマツと人々の共生は末永く続いていくものと確信しています。

(森林整備室 森林整備班)



今も美しい姫の松原

※町民のマツ葉掻きにより常にきれい。

※松くい虫被害のメカニズムと対策については、長崎の林業No. 761(2019年2月号)をご参照ください。



【特集記事】

「捨てられるもの」をカタチに

駆除イノシシの命をつなぐ

ジビエレザー作家 小畑 真裕子さん

諫早市 ジビエレザー-HUMMINGBIRD(ハミングバード) おばた まゆこ 小畑 真裕子さん

平成6年頃から問題視され始めた諫早市のイノシシ被害。主な生息地は多良岳中山間部でしたが、近年住宅地近くの被害も増え、年間3000頭以上が駆除されています。その多くはそのまま処分されますが、300頭程が加工所にて地元産ジビエとして食肉加工されます。これまではただ捨てられるだけだった駆除イノシシの皮を使い、オリジナル革製品を生み出すレザー作家さんがいらっしゃいます。同市高来町にアトリエを構える小畑真裕子さんにお話を伺いました。

革製品との出会い

はじけるような笑顔が印象的な小畑さんは、北海道札幌市出身で2人のお子さんを育てるお母さんです。暖かい土地で暮らしたいという願いを叶え、3年前の5月、縁あって高来町にある築100年の古民家に移住して来られました。小畑さんの経歴は実にユニークで、若い頃はバックパッカーとして各地を旅したそう。その後は教員免許を活かし、英語教諭として教壇に立ちました。一方で絵描きの顔も持ち、イベントでライ

ブペイントも行っていました。刺繍やアクセサリーの制作活動も始め、アートの才能に磨きをかけました。そんな小畑さんの革との出会いは最初の移住先だった福岡県糸島市。アクセサリーの委託販売先のオーナーでアートスクールの経営者でもあるハワイ出身の世界的アーティストから「牛革で自由に作品を作ってみないか」と声をかけられた事からレザー作家の道が開けました。

「革」を使うことへの葛藤

牛革での制作を始めた小畑さんでしたが、当初はなかなか革に馴染めなかったと言います。小さい頃から無類の動物好きで、その革を切り刻む行為に常に大きな抵抗がありました。罪悪感でいっぱいになる時もあったそう。同時に革産業における世界的な問題にもぶつかりました。有害物質のクロムなめを含む鞣し剤による健康被害と環境破壊は特に深刻で、心を締め付けられる思いだったと言います。そうした気づきのひとつひとつを真摯に受け止め、自分ができる、より良い制作方法を模索する日々が続きました。

「皮」から「革」へ

作品を作る上で大切にしたい事が見えてきた頃、新たな出会いに恵まれます。東京の一般社団法人が立ち上げた「獣皮を獣革にして地元に戻す」プロジェクトです。独自の技術でミモザやアカシアなど自然素材を染料とした革は、言わば「役目を終えても土に戻る事が出来る革」。地球環境を守るだけでなく「作る人使う人にも優しい革」を提供する活動に賛同し、野生皮の活かし方について学びを深めた小畑さんは、地元の山で自由に生きた駆除動物の「命の痕跡」を作品に残したいと考えます。そして偶然にも移住先に選んだ諫早市の直売所で、猪肉を目にしたのです。すぐに販売元の同市鳥獣処理加工販売組合へ連絡したところ、その熱意に共感し皮の提供を快諾、協力を得ることとなりました。森を健やかに守る人々の努力に小さな手を添えたい、捨てられるだけの駆除イノシシ皮を、長年愛用して貰えるような「ジビエレザー作品」に生まれ変わらせたい。その夢が実現した瞬間でした。



(左) イノシシ革で作ったミニイノシシたち
(右) 切れ端も最後まで使いたいとハギレBOXに

自然界を生きた野生のイノシシ革には、それぞれ個性があります。よく見ると荒々しい傷の多い厚手の革や柔らかくしなやかで薄い革など実に様々。「森を走り回る間に枝で怪我したのかな。」と優しく傷を撫でる小畑さんの手から生まれる作品は遊び心溢れるアートのような。個々の個性を大切に、愛着を持って命と対峙し作り出された作品はどれも特別で唯一無二のものだと感じます。

命と対峙する静かな時間

剥いだ毛皮は、自らの手で塩漬けを行います。1週間程寝かせて水分を抜き、東京に鞣しを依頼。山を荒らす害獣として駆除され命を落としたイノシシは、その後、「道具を使う人」の手により加工され、大切に「毛皮から革へ、革から作品へ」生まれ変わります。塩漬け作業が終わると必ず、その関わり全てに感謝し、命への贖罪も込めて手を合わせ、静かに向き合う時間を作る小畑さん。作業場には小さな手作りの祠を祀っていました。



(左) 塩漬け作業を終えた後の静かな祈りの時間
(右) 皮剥ぎ作業を実際に学ぶ小畑さん

「いのちのバトン」をつなぐ

SNSでの発信は便利で広い周知が期待できる反面、辛辣なバッシングにも晒されます。その全てを受け止めた上で、作品を通し、駆除動物の存在と森の現状を知って欲しいと話す小畑さん。ワークショップでは子どもたちにその命について語りかけます。地元の自然の中を駆け回っていた命の「カタチ」が1人でも多くの人の手に渡り、生活の一部となって愛され続けて欲しいと願う小畑さんの作品は温かい想いに溢れています。



(左) 親子参加のワークショップの様子
(右) 良き理解者として活動を支える長男の陽色君ひいろ (左)

(NPO法人地域循環研究所)

林業普及だより

ながさき伐木チャンピオンシップの練習会を開催しました!

はじめに

ながさき伐木チャンピオンシップは、現場技術者の安全技術の向上及び技術者間の交流、さらには林業のPRにより「若者から選ばれる魅力ある林業の実現」につなげることを目的として開催しており、今年で3回目の開催となりました。

この大会にむけて毎年、杵岐と対馬の合同で練習会を行っています。

練習会の様子

9月3日(日)に対馬森林組合木材共販所(美津島町洲藻)で行った練習会には、杵岐と対馬の大会出場者のうち4名が参加されました。ながさき伐木チャンピオンシップでは、5m先の目標をめがけて木を伐倒する「伐倒競技」と、丸太を上下から切り込み、そのズレ等の精度を競う「丸太合わせ輪切り競技」の2種目が開催され、今回の練習会でもその両方の競技の練習を行いました。



左：伐倒競技、右：丸太合わせ輪切り競技

大会は伐倒などの技術だけでなく作業の安全性も評価対象になっており、今回が大会初参加の4名は苦戦している様子でした。しかし、競技のポイントや、なにが減点対象となったのかを確認しながら練習を行うことで、練習前とは比べ物にならないくらい上達されていました。



練習会参加者で記念撮影

参加者の中には「もっと練習したい!」と言いながら何回も繰り返し練習されていた方もおり、とても充実した練習会となりました。



練習会の様子

おわりに

現場作業をされる方は、ほかの地域の方と関わる機会はありませんので、地域の垣根を超えた交流ができるいい機会となりました。

また、今回の練習会とながさき伐木チャンピオンシップ本番を通して、安全に対する意識を高めてもらい、安全技術の向上や就業環境の改善に繋がることを期待します。

(対馬振興局 林業課)

地方だより



白砂青松の風景を守る治山事業

～新上五島町蛤浜 防風保安林～

枯れゆく松林

快水浴場百選や新観光百選の地にも選ばれている蛤浜海水浴場に面する新上五島町蛤地区の松林は、重要な観光地の一部を占める地域の財産となっています。

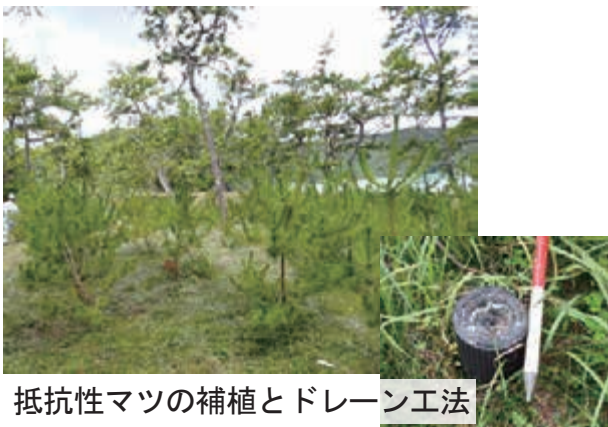
しかし、これまでの町による積極的なマツクイムシ防除作業も奏功せず、松の枯死が進行している状況です。



枯死が進み密度が低くなった松林

治山事業の取組

平成30年度以降、治山事業による抵抗性マツの補植と下刈り作業、土壌の富栄養化を防ぐためのドレーン工法の施工により、林帯の回復に取り組んでいます。



抵抗性マツの補植とドレーン工法

順調な生育

平成30年度に植栽した松は、高さ1.2mまで順調に生育し、補植した苗の残存率も80%程度と今後の生育に期待できる状況です。



順調に生育するマツ

地域の安心安全とともに

五島地域には、防風、防潮、保健などの機能発揮を目的とした保安林(松林)が多く存在します。

残念ながら、蛤浜と同様、危機的状況である林分も多いため、今後も市町と積極的に連携して、マツクイムシの防除事業と併せた治山事業の取組により白砂青松の風景を守っていきます。

(五島振興局森林土木班)



地方だより

～林業事業体紹介～ 株式会社 鶴田林業



令和5年5月に建設した新事務所

はじめに

今年の5月でちょうど会社法人化から4年目を迎え、その節目に佐世保市江迎町に事務所を新築しました。今長崎県内で一番勢いに乗っている林業事業体といっても過言ではない「株式会社鶴田林業」を紹介します。

株式会社 鶴田林業について

会社法人化以前は、長崎北部森林組合の請負班として従事していましたが、同森林組合が広域合併するタイミングで、事業拡大・従業員の労働条件の改善などを目的として、株式会社鶴田林業へと法人化しました。

これまでの森林組合からの請負作業の他、林業公社や県営林の入札参加を取得し、通年を通じた事業量の確保に努めています。

また現場作業員の多能工化を進め、作業員の大半が高性能林業機械を扱うことができるスペシャルチームを作り上げており、年間素材生産量が2,500^m (R1) から約2倍の4,000^m (R4) になるなど、右肩上がりに成長を続けています。

次世代に繋げる

経営理念として『安全かつ快適な林業を実践し、整った森林と人を次世代に繋げる』を掲げ、代表取締役の鶴田康次さん自らが現場指揮を執り、従業員が怪我をせず楽しい職場づくりに取り組まれています。

作業現場では、代表取締役の鶴田康次さんと共に5名の従業員が活躍されており、その平均年齢は脅威の33才！

現場で日々活躍してくれている若い従業員を大切に育て、次の世代に繋げていきたいと抱負を述べられました。

また、地元の高校生を対象とする高性能林業機械を使った林業体験学習では、現場の提供並びに講師役を務めていただくなど、次世代への林業教育にも積極的に取り組まれています。



高校生との林業体験学習

終わりに

今後も従業員一人一人のスキルアップと従業員の増員による事業拡大を目指されている株式会社 鶴田林業から目が離せません。

(県北振興局 林業課)

林業団体情報

市町・県職員等の森林土木技術スキルアップ研修 ～令和5年治山林道技術研修会～



森林のインフラともいえる 林道等の災害・維持管理に焦点

はじめに

長崎県内の森林土木を担当する市町職員、県職員・団体職員を対象に技術のスキルアップをめざして、長崎県治山林道協会では、長崎県と共催で長崎県林業コンサルタントの協賛を得て、8月24日（木）に長崎歴史文化博物館1階ホールで技術研修会を開催しました。

（1）危険な盛土から住民を守る

2021年に静岡県熱海市で盛土による土石流被害を受けて制定された「盛土規制法」が令和5年5月26日に施行されました。長崎県では、4月に土木部の中に新たに盛土対策室を設けました。今回は関連のある伐採届と林地開発、盛土規制法をセットにして詳しく説明いただきました。



鯨津さん

（2）林道等の維持管理と林道災害の課題と実務

森林整備に必要な森林のインフラともいえる林道や専用道、森林作業道は、開設後の維持管理が万全ではありません。現状では、森林整備を行う林業事業者が整備をしている実態です。市町の中には森林環境譲与税を活用して整備を行っ



両角さん

ているところもありますが少数です。

また、今回は林道災害が起きた時の課題や実務をわかり易く集中して説明しました。

（3）近年の山地災害被災状況

治山事業では、温暖化の影響からか台風や梅雨前線の影響で100年に1度という集中豪雨などで山地災害が頻発しています。

講演では、県の森林整備室から近年の山地災害の被災状況とその復旧をパワーポイントで紹介しました。

（4）森林整備の推進政策

林野庁森林整備部整備課の和田課長補佐を招聘しての講演でした。

和田さんは、森林整備に必要不可欠な林道や林業専用道、森林作業道の路網整備がいかにあるべきか解説しました。

説明の中で、長崎県の林道等路網密度がha当たり40.5mで全国平均の26.8mを大きく上回っていることに驚きました。

また、現在の森林作業の植え付け・下刈り・森林調査・伐採などは人力が主体ですが、林業機械の自動化、遠隔操作やレーザー計測による資源の把握など新技術の導入・活用によって低コスト化が図れると紹介されました。



和田課長補佐さん

終わりに

今回の研修会参加者は44名でしたが、今後より多くの参加者を期待しています。

（長崎県治山林道協会）

センターだより

ツバキ油の保存は、水分・温度・光の条件がポイントです！

背景・ねらい

長崎県内におけるツバキ油の生産は、五島列島のヤブツバキ林で採集した種子から生産されており、中山間地域の振興に寄与する重要な収入源となっています。ツバキ種子には豊凶があり、ツバキ油を市場へ安定供給することが課題となっています。その対策として、ツバキの植栽や栽培管理方法について取り組んでいますが、五島のヤブツバキは自生であり栽培管理の確立には時間を要します。そこで、ツバキ油の供給量を平準化するための解決策としてツバキ油の保存条件について調査しました。

研究の成果

油の劣化を表す基準に、酸価と過酸化価の数値が用いられ、どちらも高いほど劣化が進んでいることを示します。新品の場合でも保存状態が悪ければ、酸価・過酸化価は高くなり、風味が悪くなるだけでなく、不快な臭気を発するなど、劣化しやすくなります。

まず、ツバキ油の酸価の時間による変化について、油中に水分が入ると数値が高くなります(図1)。過酸化価については、保存温度が40℃の場合と、光が当たる場所で保存した場合に数値が高くなります(図2)。

また、40℃で保存すると臭気を発することも分かっています。

以上のことから、ツバキ油の保存条件は、水分や光を遮断し、高温にならない場所で保存することが望ましいです。

また、ツバキ種子のままで、常温保存する場合、管理温度が20℃を超えると搾油した油の酸価数値が高くなるため、保存期間は気温が上昇する梅雨前までが目安となります。

おわりに

長崎県の令和4年次のツバキ油の生産量は、26.9kℓで、全国第1位となり、全国生産量の39%を占めました。

ツバキ油は、食用油や美容用オイルなどとして利用されています。また、冬になるとツバキの花期になります。使ってよし、見てよしの五島列島のツバキの技術発展に、今後も生産者の方々とともに取り組んでいきます。

(農林技術開発センター)

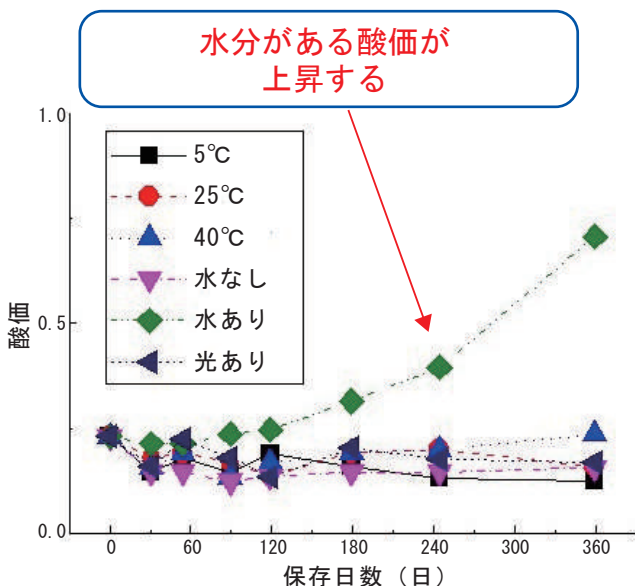


図1 ツバキ油の酸価の経時変化

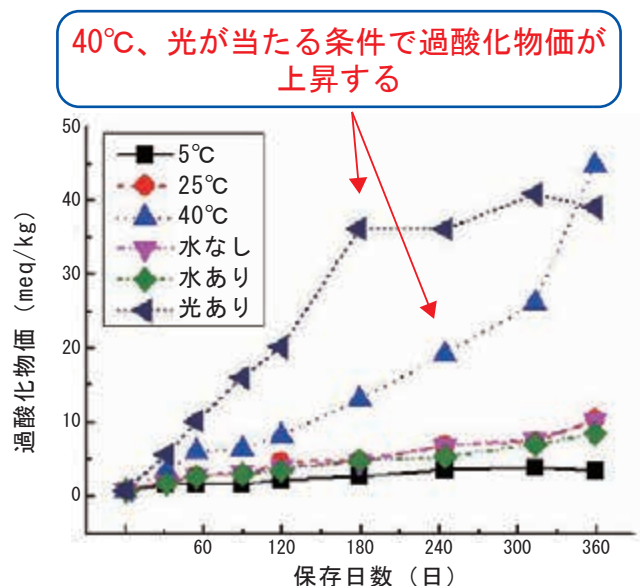


図2 ツバキ油の過酸化価の経時変化

イベント情報

長崎南部森林組合 諫早支所 農林水産大臣賞受賞！



長崎南部森林組合諫早支所の皆さま

長崎南部森林組合諫早支所が、令和5年度「全国林業経営推奨行事」において最高賞の農林水産大臣賞を受賞しました。本行事は、森林の適切な管理及び林業の技術・経営の改善に努め、森林の多面的機能の発揮及び林業の持続的かつ健全な発展に寄与している「森林の管理経営体」を表彰するものです。この行事は、公益社団法人大日本山林会の主催で昭和37年から開催されています。長崎県からの受賞は5件目となり、授賞式は11月に東京都で開催されます。

諫早支所は、4つの森林組合が平成14年に合併し支所として発足しました。県内でも他の事業体に先駆けて、森林所有者に対し施業内容や必要経費など、事業実施の収支見積を示す「森林施業プラン書」を活用し、受託面積の拡大で成果を上げられています。あわせて、高性能林業機械による効率的な作業システムを構築し、省力化やコスト縮減に取り組むことで、森林所有者の収益増加と作業員の所得向上に貢献されています。近年では、環境保全活動にも高い意識を持ち、再造林率100%を誇り、高来町山林協議会と協力してシャクナゲ林準備等経済林以外の多様な森林づくりにも尽力されていることが高く評価されました。現在も積極的な職員の雇用拡大や更なる労働生産性・技術の向上に取り組まれており、今後も長崎県の林業の発展に大きく寄与することが期待されます。

(県央振興局 林業課)

伊万里木材市況

【ヒノキ】

令和5年10月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	16～18	直	27,000	普通	多い	多い
	16～18	小曲り	25,600	普通	多い	多い
	20～22	直	24,700	普通	多い	多い
	20～22	小曲り	23,200	普通	多い	多い
	24～28	直・小曲り	23,500 ～21,700	少ない	多い	多い

【スギ】

令和5年10月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	18～22	直	15,500	少ない	多い	多い
	16～22	小曲り	13,500	少ない	多い	多い
	24～28	直	15,500	少ない	多い	多い
	24～28	小曲り	13,500	少ない	多い	多い

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場 電話 0955-20-2183 まで

長崎の山と森 樹木医巨樹さるく

亀岡神社のイヌマキ、^{じげんざくら}慈眼桜

亀岡神社のイヌマキ

平戸城(亀岡城)は、平戸島の北部にあることから、北を表わす「玄武」の象徴である「亀」がその名称の由来です。マキ並木は、1599年に築城した日の岳城(平戸古城)の頃植えられ、樹齢は400年を超えています。亀岡神社は、平戸城の二の丸にあり、その石垣に沿ってイヌマキ並木があり、今では修景の主演としてそびえ立つ平戸城と並ぶ名所として知られています。

イヌマキの並木は、北側に10本、東側に6本、6本、5本で合計27本あります。成長旺盛で、自然な樹形が美しく、最も大きいものは、イヌマキとしては県内最大級です。平戸市を中心とした旧平戸藩やその周辺地域にはイヌマキが多く自生し、風に強いことから、これを庭や人家の周りに植えて防風用や庭づくりに利用してきました。

またこのように、長崎県北地域で大切に育てられたイヌマキは、沖縄首里城の復元では、正殿の向拝柱に使われるなど、国の宝を守る貴重な木材資源となっています。



亀岡神社のイヌマキ

所在地 平戸市岩の上町1517
樹高 17 m 幹回り 5.9 m

慈眼桜

明治時代中期に五島列島や外海(長崎市)、黒島(佐世保市)から平戸に移住した人々が、この慈眼桜のある付近を開拓しています。潜伏キリシタンを先祖にするカトリック教徒らが、開拓を記念して植樹したものではないかと推測されています。

慈眼岳を遠望できる場所にあることから「慈眼桜」の名称が付けられました。

オオシマザクラに近いサトザクラです。樹冠はほぼ自然樹形が保たれていて、開花期には美しい姿を見ることができます。傾斜地でやや風下になる場所にあることから、ここまで成長できたのではないかと思います。



慈眼桜

所在地 平戸市木ヶ津町
樹高 12.1 m 幹回り 4.15 m

(NPO法人地域循環研究所)

長崎の林業 11月号 第815号
編集・発行 長崎県林政課
住所：長崎県長崎市尾上町3番1号
電話：095-895-2988
ファクシミリ：095-895-2596
メールアドレス：
s07090@pref.nagasaki.lg.jp